Ⅰ．令和２年度の運営総括及び来期の課題

「白根南児童館」は今年度で開館 6 年目を迎えることができた。来館者数は 70,998 名となり、年度初めの 4 月 20 日～5 月 18 日は、新型コロナウイルスの影響で臨時休館となった。運営の見直しや子どもたちに何をしてあげることができるか、何が必要かなどを話し合うことができた。運営の見直しでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため移動児童館の回数を減らした。白根南児童館は毎年 70 件以上移動児童館へ行っており、地域との交流を大事にしてきた。しかし、今年度は、「コロナ禍」で移動児童館へ行けない分、利用者から遊びに来てもらえるよう館内での利用者との関わりやイベントを充実させることができた。子どもたちの笑顔を想像しながら、館内整備に勤しんだ。3 密を考慮して遊べるようにし、子どもたちが進んで片付けたくなるよう工夫した。また、館外整備では、花壇の土を耕したり、除草したりする時間ができ、きれいな花を咲かせることができた。清潔感があり利用しやすい児童館になるよう心掛けた。また、今年度は児童館の情報発信として､個人情報を留意した SNS の活用等を積極的に行った。その結果、小学生の利用が増えた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館者への対応、消毒やマスクの着用、検温などを徹底し、今後も安心安全を重視した環境を整えていく。今年度は、大型イベントを中型イベントに変更し、「コロナ禍」でも実施できる内容を考えた。

１．乳幼児・保護者向け事業

（１） 総括

毎月、定例行事である『すくすくひろば』を企画・運営している。親子のふれあい遊びや身体を動かすこと、絵本読み聞かせ、制作活動など、子どもの成長を確認できる場となっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 密にならぬよう一日で実施していた工作を一週間に変更し、分散して行った。また画材も消毒しやすい物にした。例えばガラスに絵を描くことができる『キットパス』はホルダーつきの物に変更し、消毒をしやすいようにした。

春～夏の平日は、新型コロナウイルスを気にされ、第一子のお子さんと母親の来館は少なかった。秋ごろから保育園帰りの幼児の来館や、散歩や支援センターでの保護者同士による情報交換からの来館があった。新潟市南区だけでなく、広い地域からの来館がみられる。土曜日・日曜日・祝日も開館しているため、日頃支援センターに通う近隣の加茂市、三条市、田上町の方々や、父親や祖父母の来館もあった。また、職員による育

児相談や母親同士の交流を求めている保護者が多かった。職員は子どもを遊ばせながら保護者と会話をし、日頃の育児の悩みや家庭の出来事など傾聴に努めている。また、友達を求める母親への仲立ち役としての役割も果たしている。

保護者向けの行事として、『ママタイム』や『子育てオーエンジャー☆みなみ』との連携による『わくわくひろば』を開催した。今年度は、『フォトスクラップ』を行った。母親たちがリラックスできる時間を楽しんでもらった。

今後も地域の需要や希望に沿った企画を行い、地域の方々の繋がりの場を作る上で、継続していきたい。今年度は、多くの保育園からバスを利用した園外保育があり、相互の交流を図ることができた。

（２）来期の課題

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、行事の縮小をした。外部講師はあまり呼ばず、少人数制にして保護者に需要がある季節のイベント企画を実施した。来年度も引き続き実施できる範囲で今後も地域の声を重視した企画を継続し、必要と思われる要望の実現や発見ができる、繋がりの場となるように働きかけていきたい。また、保育園入園や子どもの発達、家庭環境などの保護者の悩みについて情報収集し、保護者と子どもの拠り所となる児童館を目指していく。

２．小学生事業

（１） 総括

幼児の頃から保護者と来館している子どもや園外保育で遊びに来た子どもたちが、小学生となって来館が増加した。また、低学年から中学年になった小学生の来館が増加し、小学生の来館は、定期的に来館してくれる常連の子どもが多い。

今年度、「コロナ禍」でできる事を考え、児童館のクラブ活動（南っ子クラブ、音楽クラブ）の代わりに新しいイベントとして『学習のつどい』を実施した。学習のつどいを始めようとしたきっかけは、保護者からの要望と白根南児童館を「児童館に行けば誰かいる」「子ども達の週末の居場所」にしたいと思ったからだ。メインテーマは、「共に育つ、教育の機会提供」としている。職員は子ども達が目標を達成するためのサポーターで、学習のつどいでは子ども達みんなが先生とし、分からないことは恥ずかしい事ではない、分からないことを発信することは周りの子どもたちの学びにもつながると考えている。一緒に考えてもらったら「ありがとう」と感謝の言葉を伝えるよう伝え、見

守っている。現在は茨曽根小学校 1．2 年生と小林小学校 1 年生が参加している。学習のつどいを通して子ども達が自ら考え、進めていけるような「工作」「チーム戦」「話し合い」などの内容も盛り込んでいる。子どもたちの集中力を考え、まず導入としてチーム戦での「カルタ遊び」や「読み取り問題（紙芝居）」をする。その後、15 分間集中して「自主学習」をする。残りの 15 分は「運動時間」とし、3 分割をして進めている。第一期（7 月～）から現在まで継続して参加している子が多く、子どもたちの成長が素晴らしい。最初は「遊ぶ場所で宿題なんかしたくない」と言っていた子が時間になったら自ら机に向かうようになった。2 年生が 1 年生の宿題を見てくれ、丸付けもしてくれる。年下の子の学習を見て誇らしげにしている姿を見ると自己肯定感を高める事にも繋がっているように思う。

自由工作やカプラなどの制作が十分にでき、3 密を防ぎ遊ぶことができるよう事務室前スペースや裏玄関も利用できるようにした。

今年度は、2 月から放課後児童クラブ『茨っ子クラブ』の支援員が不足のため、児童館を毎日利用し、保護者の迎えが来るまで過ごしている。児童館職員が支援員のサポートをさせていただいている。

今後も地域の居場所や、安全安心を確保しながら、継続していく。

（2） 課題

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館に行かなくなったため、庄瀬地域の小学生の利用が少なかった。新型コロナウイルスが落ち着いたら、また庄瀬地域へ移動児童館で行かせていただきたい。日頃来館している低学年、中学年の小学生が、高学年や中高生になっても継続して来館できるような環境を作っていこうと考え、今年度は幅広い年代の子どもが楽しめるように環境整備や企画をしてきた。その結果、低学年の頃から継続して来館する小学生は、高学年となっても来館している。子どもの意見を取り入れた、遊ぶ道具の購入や企画内容などの工夫を行った。今後も、身体を動かすことはもちろん、子どもの主体性を育む内容や、じっくり考える内容、ゲーム性のある高学年向けの行事の企画を実施していく。今後も勉強・宿題をする場、共に考え学ぶ場の提供していきたい。高学年も継続して楽しめ、居心地のよい必要性のある居場所にしていきたい。今後は、より地域の方々が必要とする内容や環境を提供できるよう、さらなる連携を強めていき、意見を取り入れながら一緒に作り上げ、児童館を充実させていく。

来年度もコミュニティスクールの地域の一員として、白根南児童館が地域貢献できるよう、努めていく。

３．中高生事業

（１）総括

児童館に遊びに来た中高生が『学習のつどい』で小学生の勉強を見てあげている姿が見られた。また。小学生やスタッフと一緒に遊戯室で身体を動かす姿が見られた。自主的な活動やボランティア活動を行う機会を増やし、利用してもらうことにも繋がるように働きかけていきたい。また、児童館職員と関わり、児童館を居場所として活用してほしい。

例年受け入れている中学校の職場体験においては、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。夏休みに児童館の様子や職員の仕事内容への理解をしたり、異世代交流ができたりするので新型コロナウイルスが落ち着いたらまた来ていただきたい。その時は可能な限り、自主性を重視した活動を行っていきたい。夏休みに実施した『ぬりえコンテスト』では、中高生の参加があった。きれいな色使いの作品を小学生や保護者は興味深そうに見ていた。

（２）課題

幼児・小学生の頃から来館している子どもが、中高生になってからも来館することに繋がるよう、企画・実施・環境を整備していきたい。行事やボランティアなどで積極的に連携を図り、内容を充実させていきたい。

４．移動児童館

（１）総括

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、移動児童館の PR はせず、要望のあった場所のみ移動児童館を実施した。新飯田保育園と学童クラブの『新飯田げんきっズ』の２か所へ行った。新飯田保育園は絵本の読み聞かせ、『新飯田げんきっズ』は工作を実施した。

新型コロナウイルスの状況によるが子どもや保護者、地域からの要請、ニーズには、今後も可能な限り応えるようにしていきたい。保育園の移動児童館で顔見知りになった子どもが来館してくれたり、支援センターで出会う保護者が児童館を利用していたり、交流のきっかけとなっている。移動児童館が児童館の認知、来館に繋がっているこ

とを実感する。

課題

幼児向けに関しては、ボランティアや講師の方々の協力に加えて、職員の技術力向上に努め、体制を作っていく。地域の子育て支援の先輩方である「子育てオーエンジャー☆みなみ」の方々との関係性も大事にしていきたい。また、子どもたち自身の力を引き出せるような内容にしていく。

小学生向けの移動児童館については、今後も可能な限り連携、協力をしていきたい。

来年度も、地域に根差した活動とネットワーク作り、職員のより良いチームワーク作りの取り組みをしていきたい。